

# 関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 39 2010.3



人心はれ  
奉仕せよ

奉仕の心  
田村 祐



関東学院 理事長

飯田嘉宏

*Yoshihiro Iida*

# 21世紀の 新たな教育を 学院から



教職員および学生と卒業生の皆さん、またご関係の皆様方に、理事長就任のごあいさつを申し上げます。優れた歴史と伝統のある関東学院の理事長としての重い責任を感じながら、学院の特にその経営諸問題や将来ビジョン策定に日夜努力しているところで、よろしくお願いたします。

さて、学院第1の使命は教育です。すから、我が国の教育について永らく考えていた私見を紹介し、学院の教育についての私の熱い思いを述べさせていただきます。

1990年ごろに経済状況が劣化し始めた頃から、教育全般や大学の在り方に強い懸念やバッシングが始まり、数年前には国民的議論が必要であると政府内に教育再生会議が設けられました。しかし「見派手な議論ばかりあつたがほとんど何も纏らず、二方で中教審等の地味な努力による前進はありましたが、全体として教育の先行きは混沌状態です。科学技術創造立国等の国はどのようなのでしょうか。資源が少ない我が国が立国するには人的資源に頼るしかなく、それも量や数でなく質を高めなければ世界に優つていきません。我が国には教育の意義ある改革しか拠り所がないのは自明のことなのに、何をすれば良いのでしょうか。

一方、明治以来の我が国の教育は世界に冠たるものであり、そのおかげで短期間で先進国に仲間

- 1 新理事長就任挨拶  
関東学院 理事長 飯田嘉宏
- 3 新学長挨拶  
関東学院大学 学長 大野功一
- 5 常務理事就任挨拶  
関東学院 常務理事 増田日出雄
- 【特集 創立125周年記念WEEK報告】
- 7 記念式典レポート
- 9 祝祭コンサート／音楽祭レポート
- 10 タイ ティワタ村訪問団派遣レポート
- 11 記念講演会レポート<講師:小柴昌俊氏>
- 12 記念講演会レポート<講師:白川英樹氏>
- 13 墓地記念会及び記念碑見学レポート
- 14 特別講演会レポート<講演:小泉純一郎氏>
- 15 建学の精神を生きる「卒業生に聞く」  
衆議院議員 小泉進次郎氏
- 17 第3回関東学院経営協議会開催
- 17 役員・教職員人事
- 18 「工学総合研究所」近況報告
- 19 関東学院各校NEWS
- 25 携帯サイト「OliveMap」サービス提供開始
- 26 生涯学習センター講座紹介

【カバー・ストーリー】

関東学院大学 校訓碑

関東学院創立125周年を記念して2009年1月に大学金沢八景キャンパス正門横に設置した校訓碑  
同碑には、坂田祐先生の直筆の書による校訓を刻む(つくば石/総重量2.5t)

“New Education for the 21st Century from Kanto Gakuin” –Dr. Yoshihiro Iida, Chairperson of the Board of Trustees

On the occasion of my assuming the position of Chair of the Board of Trustees, I would like to say a few words to the faculty members, students, alumni, and all those concerned.

The primary mission of Kanto Gakuin is education. I believe we need to clarify our educational philosophies and objectives and make sure that our educational programs and methods are in line with them. One of the most important objectives is, of course, providing intellectual education. In addition, we need to consider what human qualities (intelligence, virtue, physical strength) should be fostered in our pupils from kindergarten to junior high school and what skills and qualifications are needed for

入りできました。しかし現在、先述の如くに教育再生が叫ばれているのは、社会や産業の在り方が大きく変化し「量から質へ価値観も変化したため、過去の教育が現在に対応できなくなったからです。では、新たな教育とは如何なるものでしょう。

ここで教育を原点から考えてみます。広辞苑によれば教育とは、「人間に他から意図を持って働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動」です。従つて、意図(教育理念)と望ましい姿(教育の目標)が明確化されていないならば教育と言えないことが読み取れます。しかし過去の公教育ではあいまいであり、私立学校では「建学の精神」などで示されたが、十分に明確とは思えません。これは大きな問題です。今後は、教育理念と教育の目標を明確にし、それに従つた教育内容と方法にすることが必要であります。

この教育の目標ですが、学校教育ですから知育中心は当然として、幼稚園から中学校までどんな人間(知+徳+体)に育てるか、大学ではどんな人材に育てるかになると思います。高校では両方ではないでしょうか。学院はキリスト教精神に基づいた教育と「人になれ 奉仕せよ」の校訓があるように、特に徳育の方針が明確にされています。人の生活の質が重視される21世紀においては、この教育の価値が特に高く学院の意義もここにあります。

次に人材の内容ですが、従来は機械技術者とか公務員などと、職種別で考えるのが普通でした。しかし本当は機能別に考えるべきで、この場合、(A)目標設定型・目標を自分で設定でき実現できる、(B)目標実現型・目標が与えられれば過程を見出し実現できる、(C)過程実現型・過程が与えられれば実現できる、



の3種に分けられるとされます。ところで、明治以来の我が国は社会制度でも技術でも何でもかんでも、欧米をすべてのお手本つまり目標とし、それを実現することに力を入れてきました。従つて過去の教育では、目標が常にあったわけですから目標設定型を育てる必要は少なく、欧米を目標として実現する(B)(C)型を育成するものだったので、そのための教育実施でした。これが現在、過去の教育が行き詰つた理由です。何故ならば、我が国は発展してすべて欧米に追いついてしまった。こうなると自分で目標を

作るしかありません。しかし過去の教育は優れていた故にこそ脱却できないままなので、現在も(A)型が少なく、我が国全体が目標つまりビジョンを持ち難いのです。

従つて学院の教育は、上記の問題を良く弁えて機能別人材像を念頭に置き、何をやるべきかの目標を自分で設定できる人材を育成する教育、このための考えさせる教育を重視する。またはランクをひとつ上げる教育を目指す。また学生一人一人の特徴を見つめ、いずれの型の場合でも最終的に何かを実現できるように育成することです。単なる職種別人材育成型の教育では不可能な、学生の質的レベルに応じての半端でない生きた教育を学院で実現し、21世紀社会に寄与できると考えます。

最後になりますが略歴を記します。1939年に横浜で生まれ、中学校から6年間に在籍して1957年に関東学院高等学校

students at the university level. Kanto Gakuin places emphasis on providing education to enable students to think on their own so that they can set their own goals and seek their own paths and to help them elevate themselves academically. We also help students achieve success in any form possible, based on characteristics unique to each individual. It is my hope to provide substantial education to Kanto Gakuin students according to their level of performance to help them acquire working knowledge that is not possible by ordinary vocational training designed for different target occupations. I strongly hope that, through these efforts, we will contribute to society in the 21st century.

を卒業、1961年に東北大学工学部卒業、同学大学院工学研究科修士博士課程を経て1966年に同学助手となりました。その後1969年に横浜国立大学助教授、1983年に同教授となり、2000年には同学副学長(教育・学生担当)、また2003年に横浜国立大学長となつて2期6年間を務めました。そして2009年11月に学校法人関東学院理事長に就任したところです。教育研究の専門分野は、熱工学熱エネルギー工学です。

私は、10年前の1999年12月に学長に就任し、6年間その職を務めてまいりました。そして2009年12月、再度、学長を務めることとなりました。この10年間で、大学の教育環境は厳しさを増しています。大学生の基礎学力、学ぶ意欲が低下していることにおもな原因があると言われています。10年前にも言われていたことですが、今日一層深刻になっていきます。その主な原因は18歳人口の減少と高度経済成長にあります。

戦後18歳人口がもつとも多かったのは1966年(昭和41年)の249万人です。いわゆる団塊の世代です。その次のピークが団塊の世代の子どもたちが18歳となった1992年(平成4年)の205万人です。そして、現在18歳人口は約120万人でほぼ安定しています。他方、大学進学率は1966年で18%、1992年で40%、そして現在50%を超えています。要するに、18歳人口が減少しているのに対して、進学率が上昇しているのですから、それにつれて、その基礎学力が低下していくのは、他の条件に変わりがなければ、必然です。さらに、高度経済成長によって生まれた物質的に豊かな生活環境の中で成長してきた若者たちにとって、学ぶことの意義を見出しにくいのもまた当然であり、学ぶ意欲が低下するのをもまた避けられないことです。したがって、学生に現状の責任を負わせることはできないのです。

いつの時代でも、未来を憂い、鋭い

感性をもった向学心あふれる若者がいるのですが、問題はその他大勢の若者の存在です。その層の知識水準と学習意欲の如何が、国の将来を大きく左右することになります。現在の日本の若者の状況を放置しておけば、国力の低下は避けられませんが、世界における日本の経済的な地位は低下していくでしょう。他方、各国はこのたびの世界的な金融不安を経験して、一層熾烈な経済競争を地球規模で展開していくでしょう。

国力が落ちて生活環境が激変しはじめて、若者が危機意識を持って勉学に取り組んだとしても、劣勢を挽回することは難しいでしょう。それだけに、大衆化がほぼ極限に達した現代の大学教育は、現在の学生の知識水準と学習意欲の程度を正しく認識し、それを前提として、自ら考え、自ら行動する人間に育てる教育を展開する責任を負わなければなりません。厳しい経済競争に打ち勝つ企業戦士を育成するのが大学の使命であるというわけではありません。いかなる時代、いかなる状況にあつても、自ら考え、自らの判断で行動できる人材を育てる教育を展開しなければなりません。

このように考えてくると、21世紀に入つて初等・中等教育に導入された「ゆとり教育」とその教育プログラムの一つである「総合的な学習」が思い出されます。これは、本来「主体的な問題の発見、分析、解決といった二連の能力を身につけさせる」ことを意



図した教育政策でした。「ゆとり教育」の御旗は降ろされましたが、「総合的な学習」は試行錯誤が続けられているようです。おそらくその意図したところは間違っていないかっただけでしょうが、二つの点で問題があったように思います。一つは物事を考えるために必要不可欠な基礎知識の習得の軽視であり、二つは「ゆとり教育」に携わる教員の経験と技量の不足です。

大学教員は、問題を発見し、分析し、解決を求める能力を研究活動で身につけています。また、大学では、多様な教科の教育が行われています。したがって、大学は「総合的な学習」に適した場所です。関東学院大学では、毎年、ビジネスプラン・コンペティションを行っておりますが、これはまさに「総合的な学習」の大学版です。どのようなビジネスも経営学の知識だけでは成り立ちません。

生活習慣、店舗の立地条件、デザイン、関連法規、環境保全、商品に係る工学的知識、倫理等に係る様々な知識を結集して、総合的・多角的にビジネスプランを立てなければなりません。学生は、当初は身近な生活に係わるビジネスの立ち上げに好奇心を持ち、次第に、関連領域の知識や技術へと視野を広げ、議論を深めていきます。その過程で、学生は自らの知識不足を自覚し、自ら知識不足を補い始め、そして同時に、考える力、表現する力を身につけていきます。

ただし、大学における「総合的な

学習」の到達水準もまた、学生の基礎学力に大きな影響を受けます。基礎学力がしっかりとしていれば、考察がより幅広くなり、より深まることとなります。基礎学力が不足すれば、思考のスピードは遅くなり、考察の範囲も狭まります。これは大学教育全般についていえることです。

そのために、本学でも、入学前準備教育と称して推薦入学者を対象に基礎学力の向上を目的とした教育を行ったり、入学直後には大学教育に早く適応できるように少人数規模の基礎教育を行ったりしています。また、講義のクラス規模をできるだけ小さくして受講者の理解度を確認しながら進める工夫もしています。それでも、所期の目的を達成することは難しく、教育プログラムや教育方法の見直しが不断に行われています。

基礎学力と学習意欲の向上は初等中等教育で築くものですが、そのかなりの部分が大学教育の一部を占めるようになっていきます。この問題はいくつかの点で検討すべき課題ではあります。しかしその結論は容易には出そうもありません。本学は、本学に入学した学生を冷静に分析し、何が学生に必要なか、何を教育すべきか全学を挙げて検討し、教育目標を設定し、その実現に向けて様々な施策を実施しております。その成果を検証し、教育の質を保証するよう努めております。これが本学の目指している「学生本位の大学」としての教育であります。

# 大学教育の これからを考える

関東学院大学 学長

## 大野功一

Koichi Ohno

### ●大野功一 学長 略歴

【学歴】  
昭和46年3月 中央大学商学部経営学科卒業  
昭和48年3月 中央大学大学院商学研究科修士課程修了  
昭和53年3月 中央大学大学院商学研究科博士課程単位取得満期退学

【職歴】  
昭和53年4月 関東学院大学経済学部専任講師  
平成3年4月 関東学院大学経済学部教授  
平成8年4月 関東学院大学経済学部長(平成11年12月迄)  
平成11年12月 関東学院大学学長(平成17年12月迄)  
平成21年12月 関東学院大学学長(現在に至る)



### Upon Inauguration as President—University Education in the Future— Koichi Ohno, President of Kanto Gakuin University

I was President of Kanto Gakuin University for six years from December 1999 and was elected again in December 2009.

In today's education, universities are responsible for providing education to enable students to think and act on their own, and this is based on a correct understanding of the level of students' knowledge and motivation for learning. The mission of universities is not to train students to become corporate soldiers to fight to survive fierce economic competition but to train them to be able to think and act on their own under any circumstance.

In this context, serious effort throughout the university must be focused on analyzing Kanto Gakuin University students to identify what they need and what they should learn. We must set educational objectives based on the results of such analysis and implement various measures to achieve our objectives. The outcomes of our efforts must be also assessed to ensure quality education. This is the education we must seek as a "student-oriented university."

## 常務理事就任挨拶



関東学院 常務理事

# 増田 日出雄

Hideo Masuda

### Inaugural Address by Managing Director Hideo Masuda, Managing Director

After graduating from the Department of Economics of KGU, I joined JGC Corporation where I have mainly been engaged in finance, accounting and budgeting and, after becoming a board member, I have served as CFO. I have also served as a member of the Kanto Gakuin Management Council and provided my opinions as a person engaged in business management.

I will concentrate my efforts on the following two points: First, in order to improve the current account imbalance, I will provide those concerned with an explanation of the current financial status of Kanto Gakuin in a way that they can easily understand the situation correctly, with the aim of facilitating the subsequent improvement of the management to promote spending reductions.

The second focus will be placed on reform of the budgeting system within Kanto Gakuin in a way that will allow us to understand the status of income and expenditures correctly. It is my aim to create a zero-based budget, instead of preparing a budget based on past performance.

**私**は1962年関東学院大学経済学部を卒業して日揮株式会社に入社して以来、前年8月迄財務・会計・予算の分野を主として担当し、後半役員に就任してからは、経営全般を見ると同時に会社の財務責任者(CFO)として業務を遂行してまいりました。

この間、関東学院との関係としては、2008年に発足した「関東学院経営協議会」のメンバーとして、外部から学院に企業経営に携わる者として、また、OBとして意見を述べて来ました。加えて経済学部OB会が支援している「関東学院大学ビジネスプラン・コンペティション」の審査委員長を4年前より務めて参りました。

企業会計と学校会計は大変相違していますが、本質的な所は共通していると思っています。企業会計では実務経験を活かして、公認会計士3次試験の試験委員も経験し何度か試験問題を作りました。また、この関係で名古屋大学等で会計の特別講座を担当した事もあり、自分では会計の専門家であると思っています。

企業会計では利益の計上と財政状態を明らかにすることが大切ですが、学校会計では教育・研究活動の永続的維持向上とそのため財務力の維持が大切となります。

私はこの目的を遂行するために、次の2点を実行したいと考えています。一つ目は現在収支不均衡となっている状態を改善するため、会計に不案内な関係者に対し、分かりやすい言葉で学院の現状を説明し状況を正しく理解してもらう事で、その後に続く業務改善をスムーズに進ませ、支出の削減を計りたいと考えています。

もう一つは学院内の予算体系を改革し、それぞれの部門が収支の状況をしっかりと認識出来る状況を作り出すことです。予算作成時においても過去の実績をベースに予算を作るのではなく、この業務が必要だからこの予算を計上するというゼロベースの予算を実行したいと考えています。

今後少子化が更に進むことが予想され、学校経営も特色をもっていないと成り立たない時代がやってきます。将来に向って存立を確かにするため、何を重点的に行い、どのような人材を補強し、どのような学校にするのかを決め、重点的に資源を投入していく事が重要です。

そのためには収支のバランスの取れた、良い財務体質の学校に出来れば、教育にも研究にもまた学校の社会貢献にも、めりはりの効いた資金投入が可能となり、関東学院が更に一步先に進めるのではと考えています。そのために私の知識が少しでも役立てることが出来れば本学院の卒業生としてこれ以上の喜びはありません。



Serve the World 21



特集◎創立125周年記念WEEK報告



当ページの写真は、平成21年9月13日から平成21年10月12日までの期間、みなとみらい地区・クイーンズスクエア内のクイーンモールに掲出した広告写真です。広告デザイン：イサオ マツノ

# 関東学院

関東学院創立125周年記念式典が、10月10日(土)挙行されました。

記念式典に先立ち行われたプレイベントでは、「幼稚園児から大学生が出演する音楽と映像の学院紹介〜過去・現在・未来」と題し、本学院の幼稚園児から大学生によつて、学院の歴史が紹介されました。六浦幼稚園、野庭幼稚園園児による合唱の後、中学校高等学校オーケストラ部による演奏を中心に、小学校、高校など各校の学生が横浜バプテスト神学校から始まる学院の歴史を朗読。小学校、六浦小学校合同トランペット鼓隊による演奏や、大学の映画研究部CHTV製作の映像作品も披露されました。

また、中学関東学院の設立者のC・B・テネー先生を祖父にもつキヤロル・テネー氏が登壇し、C・B・テネー先生や学院設立の歴史について語られ、「テネー」族の代表として、関東学院創立125周年の式典でみなさんにご挨拶できることを大変光栄に思っています。またこうして関東学院に来ることができて、C・B・テネーも喜んでいきたいと思います。」と挨拶されました。

午後5時から、式典が始まり、内藤幸穂理事長の式辞では、長い関東学院の歴史とその組織のあり方についてふれ、国公立学

校にないものを私立学校が具現化していく道を示し、「125年の歴史のなかで活躍された諸先輩方を偲びつつ、その方々が開いた歴史伝統を見直しながら、成長しつづける1万5000人の若者がこの激動の21世紀を見事に生き抜いていくことを願います。」とお話されました。

続いて森島牧人学院長の挨拶では、「関東学院設立時から現在にいたるまで、奉仕の人々、そして多くのみなさまのご高配があつて今日の関東学院があることに感謝します。」とお話されました。また、最後には創立125周年を記念して宣言した関東学院の教育の使命「125周年宣言」の紹介がありました。

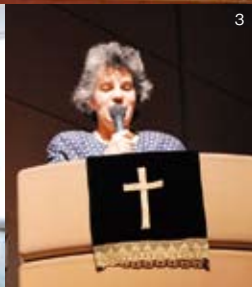
## 125周年宣言

「関東学院は、キリスト教に基づく校訓『人になれ 奉仕せよ』のもと、一人ひとりが愛と平和の精神をもつて、互いに支えあうことを誇りとする、創造性豊かな人間を育てる教育活動が続けることをここに宣言します。」

最後に称号贈呈が行われ、73の個人、法人へ、榮譽貢献員、特別貢献員、貢献員、賛助員の称号が贈呈されました。







1:ご来賓の方々と式典の様子  
2:会場内展示のペロタクシーは子どもたちに大人気 3:キャロル・テンネー氏のご挨拶(C・B・テンネー先生のご令孫) 4:中学校高等学校オーケストラ部の演奏



ご来賓よりご祝辞を賜りました。

神奈川県知事

松沢 成文 様

横浜市長

林 文子 様(当日、公務にてご欠席)

(代理として都市経営局大学担当理事・神谷 洋二様にご出席)

小田原市副市長

加部 裕彦 様

日本私立大学連盟 常務理事／上智大学学長

石澤 良昭 様

キリスト教学校教育同盟 理事長／学校法人 同志社 理事長

野本 真也 様

#### Kanto Gakuin 125th Anniversary Ceremony

Kanto Gakuin 125th Anniversary Ceremony was held on October 10th, 2009 at the Pacifico Yokohama Conference Center.

In an event prior to the ceremony, students from Kanto Gakuin's kindergartens to university made a presentation on the history of Kanto Gakuin. Following a chorus by kindergarten children, performances were given by students including the junior and senior high school orchestra club. Carol Tenny then talked about the history of the foundation of Kanto Gakuin.

The Anniversary Ceremony began at five in the evening with an opening address by Dr. Sachiko Naito, Chairperson of Kanto Gakuin, followed by a speech by Dr. Makito Morishima, Chancellor. At the end of the ceremony, "The 125th Anniversary Declaration", Kanto Gakuin's educational mission statement commemorating the 125th anniversary, was introduced.

# 創立125周年記念式典挙行



# 祝祭コンサート

関東学院創立125周年記念祝祭コンサート開催



## Kanto Gakuin 125th Anniversary Festival Concert

The 125th Anniversary Festival Concert was held on October 7th, 2009 at the Main Hall of Yokohama Minato Mirai Hall with around 1600 people in attendance. The concert started with Beethoven's Lenore Overture No. 3, followed by Mendelssohn's violin concerto played by Mie Kobayashi, and selections from Mozart's Marriage of Figaro and La Clemenza di Tito sung by Kazuko Nagai. The concert ended with a chorus singing Missa Solemnis, and Hallelujah was played as an encore to conclude the anniversary concert.

2009年10月7日(水)横浜みなとみらいホール 大ホールにて「創立125周年記念祝祭コンサート」を開催しました。当日は、台風の近づく、悪天候にもかかわらず、約1600名の方々がご来場されました。

コンサートは、ベートーヴェンの「序曲レオノーレ第3番」に始まり、小林美恵さんの独奏によるメンデルスゾーン「ヴァイオリン協奏曲」、永井和子さんの独唱によるオペラ「フィガロの結婚」「皇帝ティートの慈悲」よりアリア「恋の悩み知る君は」と続き、「荘厳ミサ」の大合唱へ。そして、アンコールでは、多くの方に馴染み深い「ハレルヤ(Hallelujah)」を演奏し、改めて学院の誕生、そして創立125周年を祝いました。大合唱は、関東学院の125年という長い歴史と伝統を引き継ぎ、新しい未来を切り開いてゆくために、関東学院に関係のあ

る方々とともにこのコンセプトの下、このコンサートのために結成された「関東学院創立125周年記念祝祭合唱団」総勢170名によるもので、ソリストたちを後押しする素晴らしいハーモニーで来場者の方々を魅了しました。

この祝祭合唱団は、昨年のプレコンサートで「戴冠ミサ」の合唱をおこなった、三春台、六浦、富士宮グループに、新たに室の木グループが加わり、それぞれグループ別に、2月から8カ月間の練習を重ね、当日ひとつの舞台に立ちました。

来場者アンケートの回答では、約9割の方から「創立125周年記念にふさわしい素晴らしい演奏会であった」というご感想をいただきました。

ご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

関東学院創立125周年記念音楽祭開催

# 音楽祭

## 創

立125周年を迎えるにあたり、大学同窓会の燦葉会も記憶に残るイベントを開催しようと足掛け2年に亘り企画を練りました。文化都市横浜と関東学院を結ぶ絆は音楽が最も相応しいとの結論を得、前年にプレ音楽祭を開催。記念年にあたる2009年、主催は燦葉会ですがオール関東学院の総力をあげた音楽祭にすることを目指しました。

ステージ構成は2部構成とし、1部に卒業生アマチュア音楽団体と現役生音楽団体数団体の演奏。2部をメインステージとし、卒業生プロアーティストを招聘しました。プロアーティストには本学工学部電気

工学科出身で、横浜を本拠地として全国で活躍中の寺内タケシさんに白羽の矢を



## Holding of Kanto Gakuin 125th Anniversary Music Festival

The 125th Anniversary Music Festival was held on September 22nd at Kanagawa Kenmin Hall. The festival program consisted of two parts: performances by alumni amateur music groups and Kanto Gakuin students' music groups in the first part and, in the second part, a performance by Terauchi Takeshi and the Blue Jeans. Mr. Terauchi's talking and the group's artistic performance was enjoyed immensely by the audience, and they loudly applauded the performers' efforts. Mr. Terauchi was willingly involved in the scenography and stage direction of the festival as well.

たてご相談したところ心からの快諾をいただき、舞台構成、演出にまで力を貸して下さいました。このような構成のもと、9月22日(火)祝)神奈川県民ホールにて開催、1部では大人の演奏の中に現役生の澁刺とした演奏があり、聴衆から賛辞が寄せられました。2部は音楽祭のメイン「エレキの神様」寺内タケシとブルージーンズの演奏で、寺内さんの絶妙なトークと技が遺憾なく発揮され大喝采を浴びました。二つの事故もなく記憶に残る音楽祭になりましたことはオール関東学院皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

【関東学院大学燦葉会会長 永嶋孝彦】



### Visiting group to Tiwata Village in Thailand

We have been offering a support program for Karen tribe children in Thailand since 1994. In 2003, a group of Kanto students visited the village for the very first time. In 2005, we held a live video Christmas meeting connecting our chapel and a meeting room of the Baptist Association in Chiang Mai. We built and donated the "Kanto Gakuin Service Learning Center" in 2006 and donated a car to the dormitory in 2009 as part of the 125th anniversary project when eighth group from Kanto visited there.



ティワタ村子ども寮に寄贈した車を囲んで

関東学院六浦小学校 校長 ● 島田正敏

# ティワタ村訪問団派遣

**タ** イの古都チェンマイから南西に300キロ。車で約6時間

走った山岳地に少数民族のカレン族が住むチバレ地方があります。約40の集落が点在し、カレン語を話す人々が高床式住居で暮らしています。学校は中心部のティワタ村にしかありません。学校まで歩くと、近い子で4時間、遠い子は2日かかります。そのため多くの子どもたちが学校に通えませんでした。1992年、カレンバプテスト同盟の牧師であるタウ先生が、ティワタ村に寮を建てました。寮費は1ヶ月100バーツ(約350円)です。当時、28名の子どもたちがいましたが、寮費を払えない親が多くて運営できない状況になりました。1994年、チェンマイ在住の日本バプテスト同盟宣教師の大里英二先生(元関東学院六浦中高教諭)から連絡がありました。私たちは現地を訪問しました。そして支援活動が始まりました。

**関東学院サービスマーケティングセンターの寄贈**

2003年、本校の献金で女子寮が完成し「第1回タイ訪問団」として子どもたちと保護者がティワタ村に行き交流しました。2005年、本校礼拝堂とチェンマイのバプテスト同盟会議室を繋ぎ、同時生中継でクリスマス会を行いました。寮の子どもたち十数名がティワタ村から来てくれました。またチェンマイにある「愛の家」(エイズの子供たちの収容施設)の子どもたちも来てくれました。「きよしこの夜」の1節をタイの子どもたちが日本語で歌い、2節を本校の子どもたちがタイ語で歌い、3節はそれぞれの母国語で歌いました。2006年には「関東学院サービスマーケティングセンター」という名称の建物を寄贈しました。

**ティワタ村子ども寮へ車のプレゼント**

2009年8月「第8回タイ訪

問団」が現地に行きました。参加者は、5年駒木根さん、石渡さん、6年一宮さんとそれぞれの保護者、教員4名、根津六浦幼稚園長や学院関係者、総勢17名でした。今回は創立125周年記念事業として寮に車をプレゼントすることができました。今まで寮には車がありませんでした。この村には病院がありません。子どもが急病になると空いている車を探し回り、2時間かけて病院に運んでいました。しかし今は、寮からすぐに搬送できるようになりました。また子どもたちが実家に帰る時、歩くと2日かかる子ども数時間で家族に会うことができるとなりました。寮の子どもたちやスタッフは、とても喜んでくれました。

『やればできる』

# 講師◎小柴俊氏

司会◎山田泰一工学部教授



2009年10月9日(金)、金沢八景キャンパスSSCC館4階ベンネットホールで、2002年のノーベル物理学賞受賞者の小柴俊氏をお招きして講演会が開催されました。この講演会は、「関東学院創立125周年記念事業」の一つとして行われたもので、学生や高校生、一般市民の方が大勢来場し、立ち見が出るほどの盛況でした。

講演に先立ち、松井和則学長が講演会の趣旨を説明、続いて、司会者が小柴氏の経歴を紹介した後、盛大な拍手に迎えられて同氏が登場されました。

講演会のテーマは「やればできる」。同氏は、「本気になってやれば、何でもできる。しかし、本気になりたいと思うことにはなかなか出会うことができません。出会うためには、物怖じせず、いろいろなことを体験、実感しましょう。」と、穏やかに語り始められました。

講演は、文科系の人にも分かりやすい内容と理科系の人に向けた内容に分けて構成。前半では、同氏が、日本の若者に基礎科学のやりがい伝えるために設立した財団法人平成基礎科学財団について紹介されました。財団設立に必要な資金を集めるために、どのような工夫を凝らし、苦難を乗り越えたかを赤裸々にユーモラスに語られました。その中で、財団では、日本国民全てが

一人年に1円をわが国の基礎科学のためにという趣旨で一人年1円という単位で寄附を募っていることを、エピソードを交えながら紹介されました。後半では、物理学の全体像について、ハブルの法則、ビッグバン、小林・益川理論などについて説明された後、素粒子を観測するための実験装置「カムイオカンデ(神岡NDE)」を建設し、実験を進めた際のエピソードについて、工学部の学生にも満足できる専門性の高いレベルで語られました。

質疑応答では、「今後もカムイオカンデに関する事でノーベル賞を取れる可能性があるということだが、どのような内容か」「工学が理学に関与できることは何か」といった質問が寄せられ、それぞれについて丁寧な回答をいただきました。

## Kanto Gakuin 125th Anniversary Lecture "You can do it"

On October 9, 2009, Dr. Masatoshi Koshiba, a Nobel laureate in Physics in 2002, delivered an invitation lecture "You can do it" at Bennett Hall on the Kanazawa Hakkei campus. In the first part of the lecture, Dr. Koshiba introduced the Heisei Foundation for Basic Science, which was established by him to encourage young Japanese to be interested in basic science. In the second part, he explained the overall scope of physics, including the Hubble Law, the Big Bang Theory and the Kobayashi-Masukawa Matrix. He also talked about the construction of the Kamiokande, a detector to observe elemental particles, and the experiments conducted there. His explanations were highly specialized and of great interest for students of the College of Engineering.

Report●関東学院創立125周年記念講演会

# 『導電性高分子の発見とセレンディピティー ～ポリアセチレン研究の34年で得たもの～』



講師●

# 白川英樹

氏 司会●香西博明工学部教授

2009年10月6日(火)、金沢八景キャンパスSCC館4階ベンネットホールで、2000年のノーベル化学賞受賞者の白川英樹氏をお招きして講演会が開催されました。この講演会は、「関東学院創立125周年記念事業」の一つとして行われたもので、学生だけでなく一般市民の方も来場し、ホールはほぼ満席となりました。

松井和則学長が開会挨拶として講演会の趣旨を説明、続いて、司会者が白川氏の経歴を紹介した後、大きな拍手に迎えられて同氏が登場されました。

講演会のテーマは「導電性高分子の発見とセレンディピティー」～ポリアセチレン研究の34年で得たもの～』。冒頭、白川氏は、「セレンディピティーという言葉の意味を知っていますか？」と客席に向かって問いかけ、その語源となったペルシャのおとぎ話である「セレンディップの3人の王子」のエピソードを交えてその意味を紹介されました。そして、大学院時代から一貫してポリアセチレンの研究を続け、偶然的な失敗から薄膜状のポリアセチレンを合成し、ドーピングの発見に至った経緯を説明。さらに、共同研究者であるアラン・マクダイアミッド博士とアラン・ヒーガー博士との出会いを振り返り、学問の面白さを味わいながら、産業界にも貢献することができた喜びについて語られました。

**Kanto Gakuin 125th Anniversary Lecture  
"- Discovery of conductive polymers and serendipity - What I have learned from 34 years of research on polyacetylene -"**

On October 6, 2009, Dr. Hideki Shirakawa, a Nobel laureate in Chemistry, delivered a lecture at Bennett Hall.

Starting with the question: "Do you know the meaning of the word 'serendipity'?", Dr. Shirakawa talked about a Persian fairy story. He also mentioned a saying by Toshiaki Honda, "Have an ambitious child's mind" and emphasized that a person with abundant curiosity and ingenuity can encounter serendipity. He concluded his one-hour speech by introducing Dr. MacDiarmid's strong belief that "Science is people."

また、司馬遼太郎の小説「菜の花の沖」に登場する本多利明の言葉「高い童心を持って」についても触れ、高い童心を持ち、好奇心が旺盛で創造性が豊かな人はセレンディピティーを捉えることができるかと訴えました。さらに、3人の博士の連携によって導電性高分子の発見に至ったことにも触れ、基礎科学と応用科学の連携、大学と産業界の連携、そして、科学技術の成果を社会が正しく活用するために理系と文系の相互理解も重要であることを強調されました。最後に、マクダイアミッド博士の座右の銘「Science is People (科学は人なり)」を紹介して、1時間にわたる講演を締めくくりました。

その後、質疑応答が行われ、4名の来場者から「次世代コンピュータについて」「ポリアセチレンを研究するに至ったきっかけ」「今後の目標」「お勧めしたい本」などについて質問があり、それぞれについて、質問者の顔を見ながら丁寧に回答していただきました。

# 横浜外国人墓地記念会及び 学院の源流記念碑見学

## 関東学院の源流を巡り、新たな飛躍を期す

関東学院の源流となる横浜バプテスト神学校を設立し、初代校長となられたアルバート・アーノルド・ベンネット先生の100回目の召天日にあたる10月12日、横浜外国人墓地記念会と記念事業の一環として学院の3つの源流である発祥の地に設置された記念碑見学が実施されました。

10月12日、午前9時30分から港の見える丘公園内にあるポートヒル横浜で荘厳な礼拝が始まりました。学院関係者約60名、アメリカから来日されたベンネット先生のご親族4名、C・B・テンネー先生のご親族4名も参加されました。長い黙祷のあと、讚美歌斉唱、聖書朗読に続き、森島牧人学院長の説教、内藤幸穂理事長が挨拶され、ベンネット先生・テンネー先生お2人の功績を讃えると同時に哀悼の意を表しました。

周知のようにベンネット先生とテンネー先生は学院の源流に関わる大きな功績を残されまし

ました。当日は斉藤氏も一行を出迎えて下さり、「自分の土地が関東学院さんの源流と聞いて顕彰板を建てるべきだと考えておりました。そんな時、自治会長で親交のあった杉島和三郎さんが内藤理事長さんと懇意というので、話がトントン拍子に進みました」とお話し下さり、和やかな雰囲気の中で記念撮影が行われました。

横浜の港を見下ろす丘の斜面に墓標が並ぶ横浜外国人墓地には学院関係者であるベンネット先生、テンネー夫人グレース氏とその子ポール氏、ネイサン・ブラウン先生、C・H・D・ウィッシャー先生が眠っています。ベンネット先生の墓ではご親族が献花、長い瞑目のあと、墓石に刻まれた「The lived on scene」を指でなぞり感無量の面持ちでした。テンネー家の墓石には生前のテンネー先生の名前も記されています。既に眠る2人と自分が同じところにいるという証です。ご親族はテンネー先生の気持ちに想いを馳せながら祈禱。ここではテンネー先生が作詞作曲したカレッジ・ソングを参列した大

学職員が独唱、ご親族から喜ばれました。次いでブラウン先生、ウィッシャー先生に献花して墓参を

終えました。

昼食後は第二の源流、東京中学院発祥の地である築地に移動

しました。かつての築地居留地42・43番地には現在、区立明石小

学校があり、記念碑は講堂前の小道の隅に建てられています。周辺の光景はすっかり変わっていますが、参加者は往時を偲びつつ記念撮影が行われました。

その後、第三の源流、中学関東学院発祥の地、現在の関東学院中学高等学校がある三春台へと向かいました。森島学院長が「関東学院が再び横浜に戻り総合学院として発展する基点となった場所です。政府の宗教教育規制に対し、認可校の特権を取って捨て、私立中学関東学院として開校し、初代院長の坂田祐先生が、人になれ奉仕せよ」と語られた、校訓は「ここから生まれました」と挨拶されました。当時のままの重厚な校舎の正面入り口右手に、人になれ奉仕せよと刻まれた源流碑が設置されています。それと対を成す左手には新しく建立された校訓碑、内藤理事長と富山校長の手で除幕されると、参加者から大きな拍手が湧き起こりました。外国人墓地墓参と源流を辿る全行程を終えて、学院関係者それぞれの表情には、原点に立ち帰って心新たに飛躍を期すという覚悟が現れていました。

礼拝を終えると横浜バプテスト神学校発祥の地へ移動しました。関東学院第一の源流である横浜バプテスト神学校は横浜市中区山手町の高台にあり、顕彰板設置にあたっては、現在、同所に住む会社役員の方の提供され

ました。当日は斉藤氏も一行を出迎えて下さり、「自分の土地が関東学院さんの源流と聞いて顕彰板を建てるべきだと考えておりました。そんな時、自治会長で親交のあった杉島和三郎さんが内藤理事長さんと懇意というので、話がトントン拍子に進みました」とお話し下さり、和やかな雰囲気の中で記念撮影が行われました。

### Kanto Gakuin 125th Anniversary Project: Commemorative ceremony at Yokohama Foreign General Cemetery and Visits to the Kanto Gakuin birthplace monuments

On October 12th, on the 100th anniversary of the death of Mr. A. A. Bennett, a commemorative ceremony was held at the Yokohama Foreign General Cemetery and visits to the Kanto Gakuin birthplace monuments were made. Relatives of Mr. Bennett and Mr. Tenny attended these events. After a church service at Porthill Yokohama, participants visited the cemetery where Mr. Bennett, Mrs. Grace Tenny and her son Paul, Mr. Brown and Mr. Fischer are buried. The participants also made a tour to the three birthplaces of Kanto Gakuin, first, "the birthplace of Yokohama Baptist Theological Seminary", second, "the birthplace of Tokyo Chugakuin", and third, "the birthplace of 'Chugaku-Kanto Gakuin'", to renew the commitment to the Kanto Gakuin's academic institutions.



1: [横浜バプテスト神学校]発祥の地  
2: [東京中学院]発祥の地  
3: [中学関東学院]発祥の地

11月8日、関東学院大学金沢八景キャンパスのベネットホールで、学院創立125周年記念事業の一環である小泉純一郎元総理の講演会が開催されました。小泉氏の2人のご子息、長男の孝太郎さんは六浦小学校、六浦中学校・高等学校を卒業後、現在は俳優として活躍されています。次男の進次郎さんは、六浦小学校から六浦中学校・高等学校を経て関東学院大学経済学部で学ばれ、その後、コロンビア大学の大学院で修士号を取得、第45回衆議院議員総選挙において初当選を果たされました。小泉氏は講演の冒頭で学院創立125周年のお祝いを述べるとともに、「関東学院さんには、私の2人の息子が大変お世話になりました。特に進次郎につきましては、先の衆議院議員総選挙において同窓のよしみで同窓生の皆さまから大きなご支援をいただき、厚く御礼申し上げます」と深い謝意を表されました。

「日本の歩むべき道」と題する講演でしたが、会場が教育の現場であることに配慮され、小泉氏の提唱で創設された「野口英世アフリカ賞」の紹介から始まりました。ガーナに向かう政府専用機の中で、野口博士の声が聞こえた気がして、病や貧困にあえぐアフリカに何かをしなければいけないと思いついたこと、ガーナは野口

Report ● 関東学院創立125周年記念事業

# 小泉純一郎

特別講演

氏

博士が黄熱病で亡くなった地でもあり、死者が生きている人を動かすというのは、まさにこのことだと思つたそうです。こういう事を思い立つたのは、読書の中で野口博士に関する知識があったればこそと読書の重要性を指摘し、本学院の在校生に向けて、読書は終生何かを得る大事な糧であると奨励されました。また、教育の重要性にも触れ、幕末のわずか数年で高杉晋作や伊藤博文など多くの有為の人材を育て、29歳の若さで他界した吉田松陰を例にあげ、「褒めて教育することがいかに大事かを説かれました。教育の一番大事なきとは、7つ褒めて3つ叱ることだと言ひ、人間の長所や持ち味を褒めて伸ばしてあげることが重要だと熱く話されました。

視座から日本的な大きな視点から日本の現状と問題点を指摘しました。

また、読書から人間としての生き方を教わることはたくさんあるとおっしゃる小泉氏は、意味深い言葉を教訓にされているそうです。150年前に88歳で亡くなった日本の孔子と称えられる佐藤二斎の言志四録の一節「少にして学べば、即ち壮にして為すことあり、壮にして学べば、即ち老いて衰えず、老いて学べば、即ち死して朽ちず」が好きだと言います。また、「憲政の神さまと呼ばれた尾崎行雄は33歳で衆議院初当選以来、連続当選25回、議員在職63年のすごい人です。94歳で亡くなりましたが石碑に「人生の本舞台は常に将来にあり」という言葉を残しました」小泉氏は94歳の人が死ぬ年になつても将来のことを考えていたことに感銘し、まさに「老いて学べば、即ち朽ちず」を実践している、年令にとらわれなかった両者の姿に感動を覚えたそうです。最後に関東学院の長い伝統が、さらに100年も200年も続くように頑張ってくださいという激励をいただきました。

「日本の予算は今、税収と国民からの借金(国債)で何とか成り立っています。税収と国債の割合は半々であり、本来は税収で予算を賄うのが正常の姿であるから今の財政状況は異例です。しかし、それも限界がきていて1~2年後には国債が税収を上回るそうです。国債を買っている人には償還期がきたら利子を払わなければなりません。最も税金を多く投入しているのは社会保障関係ですが、国債が税収を上回ると、税収の大部分が利払いに使われ政策に使えなくなります。しかし、国債の発行を減らすと言っていた民主党がここに来て国債の発行を増やす意向を打ち出しました」小泉氏はそこに大きな危惧を感じているようです。こういう状況下だからこそ行財政改革の重要性が叫ばれるわけですが、無駄を削ることがいかに難しいかも語り、留意すべきは政府が税金を使っている分野を厳しく吟味して、税金が重要な政策に使

「日本の予算は今、税収と国民からの借金(国債)で何とか成り立っています。税収と国債の割合は半々であり、本来は税収で予算を賄うのが正常の姿であるから今の財政状況は異例です。しかし、それも限界がきていて1~2年後には国債が税収を上回るそうです。国債を買っている人には償還期がきたら利子を払わなければなりません。最も税金を多く投入しているのは社会保障関係ですが、国債が税収を上回ると、税収の大部分が利払いに使われ政策に使えなくなります。しかし、国債の発行を減らすと言っていた民主党がここに来て国債の発行を増やす意向を打ち出しました」小泉氏はそこに大きな危惧を感じているようです。こういう状況下だからこそ行財政改革の重要性が叫ばれるわけですが、無駄を削ることがいかに難しいかも語り、留意すべきは政府が税金を使っている分野を厳しく吟味して、税金が重要な政策に使

「日本の予算は今、税収と国民からの借金(国債)で何とか成り立っています。税収と国債の割合は半々であり、本来は税収で予算を賄うのが正常の姿であるから今の財政状況は異例です。しかし、それも限界がきていて1~2年後には国債が税収を上回るそうです。国債を買っている人には償還期がきたら利子を払わなければなりません。最も税金を多く投入しているのは社会保障関係ですが、国債が税収を上回ると、税収の大部分が利払いに使われ政策に使えなくなります。しかし、国債の発行を減らすと言っていた民主党がここに来て国債の発行を増やす意向を打ち出しました」小泉氏はそこに大きな危惧を感じているようです。こういう状況下だからこそ行財政改革の重要性が叫ばれるわけですが、無駄を削ることがいかに難しいかも語り、留意すべきは政府が税金を使っている分野を厳しく吟味して、税金が重要な政策に使

## 『日本の歩むべき道』

Special lecture by Junichiro Koizumi "The way that Japan should go"

A lecture by the former Prime Minister Junichiro Koizumi was given on November 8th at Bennett Hall on the Kanazawa Hakkei Campus as part of Kanto Gakuin 125th Anniversary projects. At the beginning of his lecture, Mr. Koizumi gave a congratulatory address on the occasion of the 125th anniversary. Mr. Koizumi's lecture included an introduction to the "Noguchi Hideyo Africa Prize," which was established following his proposal, and an encouragement to students to read books because one can learn many things from books throughout one's life. He also mentioned the importance of "education with emphasis on praising". Mr. Koizumi encouraged the audience to carry on the long tradition of Kanto Gakuin for another 100 and even 200 years.

J  
u  
n  
i  
c  
h  
i  
r  
o  
K  
o  
i  
z  
u  
m  
i

衆議院議員 **小泉進次郎氏**

(聞き手: 関東学院大学経済学部准教授 青木克生氏)

**学院での体験、3年間の海外生活、  
全てが今に活きている**

**青木** 六浦小学校から中学・高校を経て関東学院大学を卒業されたわけですが、在学時代で二番思い出に残っているのはどんなことでしょうか。

**小泉** 小学校2年生でソフトボールを始めて、中学と高校は野球漬けの毎日でした。プロ野球選手になりたいという憧れを胸に高3まで野球に熱中していました。監督からは言葉遣いや礼儀、作法を厳しく躾けられました。当時は注意されると煩わしく感じましたが、今になってその有難みを強く感じています。野球部の練習の定休は月曜日だったのですが、その月曜日も授業がありましてから野球部の仲間とは365日顔を合わせていました。家族以上に一緒に時間を過ごしていた仲間との絆は強くて卒業後もつきあいが続いています。汗と泥にまみれて苦楽を共にした日々は何ものにも代えがたい学生時代の思い出です。

**青木** 大学時代はどうでしたか。  
**小泉** 大学は人との出会いや勉強以外の勉強をする貴重な時間にしたと考える、部活にも入らず、ゼミでも先輩後輩での飲み会のほうが心に残っているぐらい、学友との友情を深めた4年間でした。それとオーストラリアでのホームステイ、僕が尊敬する御園和夫先生と一緒でしたが、クイーンズランド大学での英語体験も非常に心に残っています。大学での思

い出というところの2つに集約されますね。

**青木** 部活や人との交流を通して大事な人間関係を学んだということでしょうか。

**小泉** 僕は詰め込み型の指導をされても反応できないタイプです。ですから型にはまらない先生が好きでした。高校時代に授業で教科書を使わず話を聞いていれば良いという先生がいました。その型破りなところが好きだったので、その先生から学校帰りに買い食いするならジュース一本を減らして新聞を買えと言われました。それから毎朝新聞を買って読むようになり、そこから得た知識は今、僕の血肉になっています。大学時代でいうとそういう先生に当たるのが御園先生でした。英語が苦手な学生に合わせた指導を下さって授業も面白かった。関東学院でこういう出会いがあったのは幸せでした。





**青木** 卒業後はアメリカに行かれたんですね。日本を外側から見て感じるころがあった、その時に政治家としての素地が培われたのではないのでしょうか。

**小泉** 助けてくれる人が誰一人いない環境の中、何ごとにも一人で立ち向かわなければならぬ、勉強に集中しなければならぬ、人生で初めて自分の能力の限界に本気で挑戦した3年間でした。特に日常生活では、日本で当たり前前にできたこともアメリカでは当たり前前にできない、そのことにもどかしさを感じながらつづつ克服していきました。アメリカでの3年間の生活があったおかげで、あの時の苦しさに比べればどんなことにも耐えられる、やろうと思えばできないことはない、今では確信を持ってそう言えます。

**青木** 私もイギリスに研究留学をした経験があるから良くわかります。でも小泉さんのような性格なら半年も経てば友だちもたくさんできたのではないですか。

**小泉** 世界各国から来ている学生と同じ寮に住んでいたの、世界中に友だちができました。後

## 改めて感じた 関東学院の底力と団結の固さ

**青木** 地元で選挙活動をされていて何を感じましたか。

**小泉** 今回の選挙で一番大きかったのは、関東学院という繋がり

の皆さんも外国に行く機会があれば是非行ってみて欲しいですね。外国に行った経験があったり、外国に友だちがいれば、外国で起きた事件や災害が対岸の火事ではなく身近な出来事と感ずることもできるし、世界は影響しあっていることを知ることができま

**青木** その通りですね。話は変わりますが、学院は建学の精神として「人になれ奉仕せよ」を掲げています。これは社会に出てからの人間関係の中で活きてい

**小泉** 生きていますね。「人になれ奉仕せよ」の解釈は人それぞれだと思えます。私の中では、どんな立場に就こうと、どんな仕事をしよう、その前に大切にしなければいけないのは人となり、だめられていると理解しています。在学中は理解できませんでしたが、今、校訓の深い意味を重く受け止めています。

仲間たちが支えてくれたことで、関東学院六浦の同窓生が中心になり、小中高大の先輩や後輩も加わって「六進会」という後

援会を組織してくれました。関東学院六浦の六と小泉進次郎の進をとって名づけた会です。そのメンバーが毎日、あの暑い、しかも苦しい戦いを支えてくれて、講演会や個人演説会などのイベントを企画してくれたり、学院関係者に声をかけてくれて200人規模の集会を開いてくれたり、改めて関東学院の底力と結束の固さを強く感じました。



**小泉** 今、12の役職を与えられて、毎日会議への出席で追われています。新人なのにこれだけ多くの仕事を与えられると同時に、11月には国会で初めて質問の機会をいただき感謝しています。2010年は参議院選挙がありますから、おそらく総裁と一緒に日本全国を飛び回る機会も出てきますので、新人としては与えられた仕事を一生懸命全うするだけです。200人いる自民党の衆参両院の中でただ二人の20代議員ですから、私にできることは若い人たちに自民党は変わりますよと発信していくことだと思っています。国会議員になる前は、自民党は保守的で若い者の考えなど無視されるだろうと考えていましたが、入ってみたら若いということに逆に見方を求められる、非常に意欲をかき立てられました。

**青木** 人として人とどう接するか、他の人から認められるための人となり、のあり方などを大切にしてこられた小泉さんだからこそ、関東学院の友人たちが結束したのだと思います。すでに国会議員としての活躍は顕著ですが、今後の抱負をお聞かせ下さい。

**小泉** まず、政治に対する信頼を取り戻す努力をしていきたい、一人の国会議員として国民の信頼に足る政治家になりたいと思

**青木** 議員としてどんなお仕事をされているのですか。

**小泉** 参議院議員になる前は、自民党は保守的で若い者の考えなど無視されるだろうと考えていましたが、入ってみたら若いということに逆に見方を求められる、非常に意欲をかき立てられました。

**青木** 政治の世界もそろそろ交代の時期かと思っています。関東学院の卒業生として学院全体で応援しておりますので、若い方の見本となるべく日本を牽引していただきたいですね。本学でも小泉さんに続くような人材の育成に力を入れていきたいと思

**小泉** 関東学院出身の国会議員として、在校生、卒業生、関係者の方がたが応援しがいのある政治家になれるよう頑張っていきたいと思います。

お願いします。

### The present based on what was learned at Kanto Gakuin and my three-year overseas experience—Mr. Shinjiro Koizumi

We had a special interview with Mr. Shinjiro Koizumi, a graduate of Kanto Gakuin. He pleasantly talked about his experiences in Kanto Gakuin when he was a member of the baseball team of Mitsuura Junior and Senior High Schools. He also said that he built deep friendships while at Kanto Gakuin University.

Looking back on his life at an American university after graduating from Kanto Gakuin, he said he was able to develop mental strength there to overcome any obstacle. Furthermore, he said that the spirit behind the foundation of Kanto Gakuin "Be a man and serve the world" underlies the message "Be a man". What he learned from the spirit, therefore, has supported his relationships with others to the present. The interview seemed to afford Mr. Koizumi a relaxing moment, though he is currently engaged in 12 different posts.



●小泉進次郎氏 略歴

昭和63年4月 関東学院六浦小学校入学  
平成6年4月 関東学院六浦中学校入学  
平成9年4月 関東学院六浦高等学校入学  
平成16年3月 関東学院大学経済学部卒業  
平成18年5月 米国コロンビア大学 大学院政治学部修士号取得  
平成21年8月 第45回衆議院議員総選挙にて自民党候補として出馬し、初当選

【学外委員】

岡村 正氏 日本商工会議所会頭  
株式会社東芝 相談役  
北城恪太郎氏 日本アイ・ビー・エム株式会社 最高顧問  
公文 宏氏 学校法人女子学院 理事長  
小谷 昌氏 京浜急行電鉄株式会社 取締役会長  
平澤貞昭氏 株式会社横浜銀行 特別顧問  
(岡村 正氏は当日欠席)

【学院側委員】

飯田嘉宏 理事長  
森島牧人 学院長・大学文学部教授  
吉沢寿朗 常務理事  
松井和則 理事・大学長・工学部教授  
望月正光 理事・大学経済学部教授  
平澤芳久 理事・前 日本バプテスト神学校校長

【本学院出席者】

星野彰男 常務理事  
増田日出雄 常務理事

(2009年12月10日現在)



# 改革 そして 実行へ

## 第3回関東学院経営協議会開催

2009年12月10日、関東学院経営協議会を開催しました。経営協議会は、学外有識者5名と本学院理事6名で構成され、本学院の運営に関し、貴重な助言・要望をいただく意見交換の場となっています。

3回目となる今回は、①事業計画・予算編成、②企業と大学の連携、③学院各校の個性化を議題としましたが、これからの関東学院の果たすべき役割、そのために必要な改革の推進が中心テーマとなりました。学院の健全な財政のための予算管理のありかた、安全・確実な資金運用の方針等についての確認・助言、教育・研究の活性化のための業績評価

価値、学生による評価(満足度調査)の活かし方、改革のための諸政策を実行する体制づくり等々について活発な意見交換が行われました。

企業での入社後の追跡調査の結果等から、企業では学力だけではなく、人物本位の採用としていること、企業や社会が求めているのは高い倫理性をもった学生であるとの助言がありました。

本学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」の精神をもった健全な学生・生徒の教育をさらに推進するために必要な改革を実行していくこと、そのことを改めて認識した会議となりました。

Committee Members



岡村 正氏



北城恪太郎氏



公文 宏氏



小谷 昌氏



平澤貞昭氏

Reform followed by Action –The Third Kanto Gakuin Management Council Meeting.

The third meeting of the Kanto Gakuin Management Council, consisting of five experts from external sources and six members of the Board of Directors of Kanto Gakuin, was held on December 10, 2009. The Council meetings are opportunities for its members to submit suggestions and requests concerning the management of Kanto Gakuin. Participants mainly discussed roles that should be played by Kanto Gakuin in the future and the promotion of reform that needs to be undertaken to fulfill these roles. Vigorous discussion on issues included the following topics: budget management for sound finance, policy for safe and rigid fund management, performance appraisal to promote education and research, use of survey results taken from students (satisfaction survey), and establishment of a system to implement measures for reform.

● 退任役員 ●  
内藤 幸穂  
ないとう さちほ  
①理事長  
②平成21年10月31日

● 退任役員 ●  
松井 和則  
まつい かずのり  
①理事  
②平成21年12月18日

①所属 ②退任年月日



● 新任職員 ●  
釜井 翼  
かまい つばさ  
①入試課  
②平成21年10月1日  
③関東学院大学工学部

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴



● 新任職員 ●  
千村 涼子  
ちむら りょうこ  
①キャリア支援課金沢文庫キャンパス  
②平成21年10月1日  
③関東学院大学文学部



● 新任職員 ●  
大野 功一  
おおの こういち  
①理事  
②平成21年12月19日  
③中央大学大学院商学研究科



● 新任役員 ●  
増田 日出雄  
ますだ ひでお  
①常務理事  
②平成21年7月26日  
③関東学院大学経済学部



● 新任役員 ●  
飯田 嘉宏  
いいた よしひろ  
①理事長  
②平成21年11月1日  
③東北大学大学院工学研究科

役員・教職員人事

## 「工学総合研究所」近況報告

### 工学総合研究所とは？

研究所というと、みなさんはどんなイメージをお持ちでしょうか。たぶん、まじめそうな先生方が、難しそうな研究をやっているところというイメージでしょうか。半分は当たっていますが、半分は違います。そこで、その誤解を解くためにこの文章を読んでみてください。工学総合研究所は、本学での、工学つまりみなさんの暮らしに直接役立つ技術に関する、幅広い分野の研究と教育を進展させるために、さまざまな活動をする目的で設立された研究所で、今年で創立35年を迎えました。そして、意外なことに、研究所としての建物は存在しません。では、どんなことをしているのでしょうか？

### どんな活動？

関東学院大学工学部では、さまざまな分野の先

生がそれぞれの研究室を持って、教育・研究をおこなっています。そこで、その活動をサポートするために、論文集を発刊したり、講演会を開催したり、展示会出展費や研究所で採択したテーマの研究費の一部補助などをおこなっています。また、大学は企業との共同研究も積極的におこなっており、その活動もサポートしています。さらに、教員とは別に30名程度の研究員が在籍していて、各教員研究室に所属して研究をおこなっています。その内容は、空調の省エネ、農業の成分の無毒化、脱臭技術、ヒートアイランド、新薄型テレビなどに使われる有機EL材料、などがあり、機械、電気・電子、情報、建築、土木、工業化学、生命科学の多岐にわたって、みなさんの暮らしを直接よりよくするための新しい技術の開発に取り組んでいます。また、本学が位置している三浦地域および横浜地域の地震対策や都市環境の研究に

も重点をおいて、地元の人たちの暮らしに貢献することにも力をいれています。つまり、研究の中身は難しいですが、研究の成果は、みなさんが今、回りを見回して使っているもの、すべてに影響しています。

### これからの工学総合研究所

本学には、研究全体を統括する総合研究推進機構、メッキ技術で世界をリードする表面工学研究所、建築設備で優れた技術を有する大沢記念建築設備工学研究所があります。これらの組織や他の文系の研究所とも積極的に協力して、オンリーワンやナンバーワンの研究をどんどん増やしていきたいと考えています。みなさんも、こんなものがあつたらもっと便利になると思うものがあれば、どんどんメールで送ってきてください。アドレスは、kosoken@kanto-gakuin.ac.jpです。



小松 督教授

### Latest news on the Institute of Science and Technology, Kanto Gakuin University

Over the last 35 years since its establishment, the Institute of Science and Technology has offered various programs to support educational and research activities of the College of Engineering, including the publishing of research papers, offering of research grants, and organizing lecture meetings and joint research projects with companies. Areas of research included in the institute are mechanics, electrical engineering, information, architecture, civil engineering, industrial chemistry and life science, with particular efforts presently focused on earthquake preparedness and urban environment in the Miura and Yokohama regions. The institute will continue to aim to enhance its research in cooperation with other institutes of Kanto Gakuin University.



テクニカルショウヨコハマ2009での建築学科高橋先生の講演



テクニカルショウヨコハマ2009での建築学科渡部研究室のブース



2009NEW環境展での物質生命科学科香川研究室のブース

大学

「横濱の新名物を  
作ろう！」プロジェクト  
進行中

**関** 東学院大学と株式会社崎陽軒の産学協同プロジェクト「横濱の新名物を作ろう！」が現在進行中です。

横浜開港150周年を記念して、2009年に学院創立125周年を迎えた本学と、2008年に創業100周年を迎えた崎陽軒がタッグを組みました。テーマは点心。学生が提案したアイデアをもとに崎陽軒が商品を開発し、本年3月から「横濱の新名物」として崎陽軒店で販売予定です。



学生から寄せられた企画は全5学部から計59件。「揚花(新感覚ドーナツ)」「黒船(黒い春巻き)」「ハマチマキ(家系ラーメン)と餅米を使ったちまき」「横浜あいす月餅もちっ子ひょうちゃん(パナラ生

関東学院  
各校  
NEWS

チョコクリーム入りのソフトタイプ月餅)」「3色パオズ(シーフードドリア、ナポリタン、牛鍋味の包子)」「春浜ロール(新感覚の蒸し春巻き)」の6企画が1次審査を通過しました。

1次審査通過者は崎陽軒の工場見学などを経て、企画案をブラッシュアップ(磨き上げ)した上で、昨年11月8日(日)に行われた最終プレゼンテーション・審査会に臨みました。審査委員、ならびに最終プレゼンテーション観覧者からは、学生のアイデアの斬新さとプレゼンテーション能力の高さに賞賛の声が送られました。

栄えある最優

秀賞は、野並直文 崎陽軒社長も大絶賛の「横浜あいす月餅もちっ子ひょうちゃん」。提案者の一人、経済学部3年の浅見洋子さんは「外側はもちっ子とした食感、中は餡はパナラ生チョコ



ココリウムのところつとした食感にこだわりの横濱発祥のアイスクリームの風味を再現した新感覚の点心です」と、その特徴について語っています。



現在、3月の発売を目指し、学生と崎陽軒製作担当者の企画会議が行われています。新商品へのこだわりだけでなく、販売促進方法やパッケージデザインなど、学生のアイデア、行動力にも期待が寄せられています。発売時には製品完成発表会も行われます。学生の想いがこもった新名物にご期待下さい。

「横濱の新名物を作ろう！」プロジェクト事務局・経済学部准教授 小山 厳也

関東学院創立125周年記念事業  
日中環境フォーラム  
報告

**本** フォーラムは関東学院創立125周年記念事業の人間環境学部企画の二環として開催されたもので、上海応用技術学院との間で「環境」をテーマに両校の学生による環境保護に関する論文・ポスターのコンペティションを実施し、両校の優秀者が日本―中国を相互訪問し、環境問題についての発表会・意見交換を実施することで国際的に環境について考えるものです。

本学人間環境学部各学科の優秀者は、現代コミュニケーション学科2年 鮫島

絵里奈さん、人間環境デザイン学科3年 小林真陽君、健康栄養学科3年 永沼信二君、人間発達学科2年 武田友子さんの4名。上海応用技術学院の優秀者は、経済管理学部2年 徐悟さん、材料科学学部2年 程潔玲さん、コンピュータ学部3年 喬子辰君、芸術デザイン学部4年 沈伊莎さんの4名でした。

また、本学から上海応用技術学院へは10月28日～11月1日、上海応用技術学院から本学へは11月11日～11月15日の日程で相互訪問し、それぞれの大学で環境論文ポスターコンペティション優秀作の発表とスピーチを実施しました。



「日中環境フォーラム」は一連の活動の中心となるもので、人間環境学会及び本学工学部の協力を得て、11月13日午後3時より人間環境学部5号館チャペルに於いて開催され、当日は学内外合わせて約300名の参加者がありました。第一部としてアグネス・チャン氏による「水の惑星

に生まれて」と題しての基調講演が行われました。ユニセフ親善大使でもある同氏による講演は、環境保護・国際ボランティア活動を通してのお話で、歌や中国語を織り交ぜ飢餓や貧困、砂漠化等環境悪化の現状が紹介され、地球的視野で環境をいかに守っていくかを提言されたものでした。第2部では前述の学生による論文発表が行われ、日中に於ける環境保全に関する取り組み方や考え方が紹介されました。最後に上海応用技術学院の学生4名に優秀賞の賞状と盾が授与されフォーラムは終了しました。

また、他の活動としては、学生による意見交換会の開催、日本文化体験として茶道・陶芸教室を体験、環境問題への取り組みとして通学路のゴミ拾い、金沢区ゴミ焼却工場見学等を実施し、日本の環境保全の一端を経験して頂きました。

今回初めて、本学の協定校である上海応用技術学院生と人間環境学部生で一つのテーマの下に学生どうしが相互に相手国を訪問し、肌で感じる国際交流が実現した事に大変意義深いものを感じると共に、実現に向け努力して頂いた関係各位に感謝致します。



## 関東学院創立125周年記念事業 文学部 国際シンポジウム

12

月5日、横浜の県民共済みらいホールで創立125周年記念事業の一環として文学部国際シンポジウムが開催されました。秋山薊二文学部長の挨拶、郷原佳以文学部比較文化学科講師の基調講演に続いて行われた、パネルディスカッションには日・中・韓の研究者が参集、参加国のジェンダー事情の現況、問題点などについて話し合われました。

テーマ「東アジアの異文化理解とジェンダー——日・中・韓の視点から——」  
パネリスト

楊逸氏(関東学院大学文学部客員教授・第139回芥川賞受賞作家)

張雅意氏(北京第二外国语学院講師)

季愛琴氏(南京師範大学外国語学院教授)

金孝順氏(高麗大学日本研究センターHK研究教授)

井田瑞江氏(関東学院大学文学部現代社会学科准教授)

基調講演で郷原氏は、90年代以降、より複合的な社会的性差の問題に取り組

### (University)

#### “Create a New Specialty for Yokohama!” Project

Among 59 products created by students and submitted to the “Create a New Specialty for Yokohama!” project, an academic industrial cooperation project between Kanto Gakuin University and Kiyoken, “Yokohama Ice Geppi Mochikko Hyo-chan” won the first prize. This product is a Chinese dumpling with ice cream flavors, which has a chewy skin filled with vanilla and chocolate fresh cream. Students who invented this product and Kiyoken staff are now discussing its commercialization plans. The product is scheduled to be sold from March at Kiyoken shops.

#### Japan-China Environmental Forum

The Japan-China Environmental Forum was held on November 13 by the College of Human and Environmental Studies as part of the 125th Anniversary Studies projects. In the forum, winners of an essay and poster competition on environmental conservation jointly organized by Kanto Gakuin and the Shanghai Institute of Technology were invited to present their research work and join in a discussion. Four students each from the two schools won the outstanding performance award. Agnes Chan made the keynote speech in the first part and the winners made their presentations in the second part. At the end of the forum, the four students from Shanghai received a certificate and shield.

#### International Symposium by College of Humanities

The International Symposium “Cross Cultural Understanding and Gender Equality —From the standpoints of Japan, China and Korea—” was held on December 5 by the College of Humanities at Yokohama’s Kenmin Kyosai Mirai Hall. The symposium was started with an address by Dean Akiyama of the College of Humanities, followed by the keynote speech by Prof. Gohara, Professor at the College of Humanities. In the panel discussion, researchers from Japan, China and Korea discussed current gender issues in their countries.

むことを謳う「ジェンダー研究」や「セクシユアリティ研究」を引き継いだ「フェミニズム」は時代遅れになった観は否めないが、今日のジェンダー研究も十分に吸引力を発揮しているとは言えないと指摘。そして、フランス語で袋小路を表すアポリアという言葉を用いて、必ず理論に偏りの出るジェンダーの難しさを説き、1990年代末にフランスで国会議員数の男女比をめぐって行われた論争をジェンダー研究の一視点として示されました。

日本在住22年の楊氏は日本の共働き家庭では女性が母、妻、会社員の三役を担っていること、また国際結婚の増加で夫婦の価値観の違いから軋轢が生じることが多いという指摘がありました。中国の張氏と季氏のお話は、中国では各種の法律で男女平等が謳われているが、実際には十分に権利が保障されていないことでした。両氏とも「男性は外、女性は内」という旧来の考え方が根強く残っていることを指摘。張氏は、この考え方は儒教に起因するところが大きく、真の男女平等を実現するには文化から原因を探る必要がある



おける母親の役割は重要なものだと思います。どんなに教育水準の高い女性でも、結婚後は子どもへの教育に献身しなければ、女性として成功した生き方ではないということです。井田氏は、少子高齢化が進む日本では既婚女性の就業が期待されているが、政府の子育て支援策が示されたにも関わらず、女性たちは出産を機に家庭に入り、子育て終了後に再び就業する「中断再就職型」を選択するケースが多いが現状であると紹介しました。

日・中・韓に共通するのは家事・子育ては女性の役割という認識、今回のパネルディスカッションでは時間が足りずジェンダーの本質まで迫れませんでした。が、今後とも連携しながら探っていくという結論でシンポジウムは幕を閉じました。

と結びま  
した。  
金氏は、韓  
国では子ど  
もの教育に



# 中学校高等学校

教諭 繁下 拓也

関東学院創立125周年  
中学校高等学校創立90周年記念  
音楽会報告

## 祝典組曲「未来」という名の風」の初演

**中** 高には3つの音楽のクラブがあります。そのクラブに所属する部員

数は全校生徒の約15%、200名。音楽を日々練習し研鑽している各クラブですが、いつの日か一緒にステージで演奏会を実施したいと考えておりました。今回、創立125周年記念事業の一環として、理事長先生をはじめとする法人の皆様のご支援のもと、中高の91回目の創立記念日にその思いが実現することとなりました。まずはご理解ご支援いただいたすべての方に御礼申し上げます。

さて、実施が決まり、せっかく一堂に会



するのだから、ただクラブごとの発表をするだけでは面白くない。一緒に演奏できる曲を考えようとなりました。オペラ「アイダ」の凱旋の場面や「タンホイザー」の進行曲も頭をよぎりましたが、今ひとつしっくりしない。それならば曲を委嘱してしまおうということになりました。幸いに中高の第52回卒業生でテレビ、映画、舞台等の音楽の制作で活躍中の作曲家井口拓磨氏(28歳)ならば、今の中高生が好んで聴いてくれるような作品を書いてくれるだろうと思い相談、快くこのプロジェクトを受諾してくださいました。それが昨年の5月のことでした。その後、富山校長先生のアドバイスで合唱を入れようということになり、詩を小中高校生に公募することにしました。夏休みをはさんで、9月に集まった詩は約700! 膨大な詩をどのように歌にしていくなか正直愕然としました。しかし、学内である程度しぼった上で井口氏に委託。14人の小中高の生徒の詩を井口氏が選出、さらに

氏も手を加え、「未来」という名の風」という形で詩が届いたのが10月。数回の音楽面の手直しを依頼し、スコアという形で私の手元に届いたのが11月。その後ハンドベル部分、マーチングバンド部分のアレンジの作業も進行し、各クラブの大会や行事の合間をぬつてこの曲の練習がスタート。最終的には本番直前の土曜日に3クラブ合同のリハーサルを行いました。

次なる難点は各クラブのステージと合同のステージがあるために細かく場面転換が必要な点です。反響板を出したり、しまったり、オーケストラピットを上げたり、下げたり等々。これらは30人体制の舞台スタッフで対応していただきました。それらの集大成が1月27日のステージとなりました。演奏で開始、マーチングバンドのグルーブ感溢れるステージドリル。休憩後は緩急自在なオーケストラの演奏、そして合同演奏。この演奏にはマーチングバンド97名、ハン



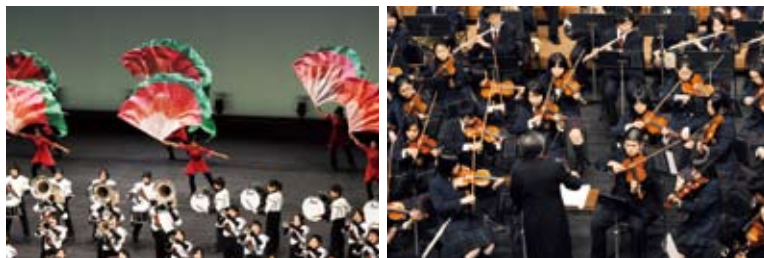
ドベル11名、オーケストラ94名、高校生音楽選択者を中心とした合唱124名という326名という出演者で高らかに「未来」という名の風」を奏しました。この曲の冒頭では音楽に合わせて、井上廣和氏(高22回卒)の三春台キヤンパスの素敵な写真もスライドショーで上演されました。

音楽を同じステージで演奏する喜びとともに、関東学院の伝統と未来へ向けてのパワーを発信する演奏会になったと自負しております。またいつの日かこのような場所があることを願いつつ報告を終えさせていただきます。

### [Junior and Senior High Schools]

The Premier of the Celebration Suite "Asu-to-iu-na-no kaze (A Wind Called Tomorrow)"  
—Report of the Kanto Gakuin 125th Anniversary and Junior and Senior High Schools 90th Anniversary Commemorative Concert—

As part of the 125th Anniversary projects, three music clubs of the Junior and Senior High Schools gave a joint concert. It was decided to prepare a new piece of music, and Mr. Takuma Inokuchi willingly accepted to write music for the occasion. Junior and senior high school students were invited to submit lyrics for the new song, and 700 different lyrics were received. The best lyric poem was selected by the school staff and Mr. Inokuchi, and the completed song was entitled "Asu-to-iu-na-no kaze (A Wind Called Tomorrow)." After an arrangement of the part for the hand bell choir and marching band were made, practice for the concert began. After many joint rehearsals of the three clubs, the music was proudly performed by 326 students.



# 六浦中学校・高等学校

教諭 中村 優子

## 六浦祭

10月30日(金)、31日(土)の両日にわたり、本年度六浦祭を開催しました。

しかし、今年の六浦祭は例年とは大きく異なる、特筆すべき文化祭となりました。

新型コロナウイルスの影響については連日報道等で大きく取り上げられていますが、この2学期はインフルエンザによる学級閉鎖、学年閉鎖で、本校もその対応に追われ、生徒たちも大きな影響を受けました。

夏休み終盤よりインフルエンザ罹患の報告が入り始め、2学期始業式は放送で行い、感染を防ぐため、礼拝は礼拝堂ではなく教室で行うことが始まりました。9月中旬の中学3年生研修旅行はかろうじて実施したものの、その後より本格的に学級閉鎖が開始、9月下旬中学2年生の社会見学延期、初めての試みであった高校体育祭を中止しました。10月に入

つても同様の状況が続き、オープンキャンパス中止、創立記念礼拝講演の中止、学院創立125周年記念ブレイイベントにも本校生徒の参加は見合わせました。中学生と高校1年生の中間試験を延期し、宗教改革礼拝も放送で行い、六浦祭の時期を迎えたのです。

こういった状況から、六浦祭を果たして実施してよいか、様々な意見がありました。実施するにしても、その準備として位置付けていた行事が延期されたり、練習期間が既に短くなっていたことから、発表内容にも不十分な点が生じることは否めません。学校行事を行ったことで流行為が拡大したという事例が複数校より報告されてきました。悩みに悩んだ結果、マスク着用、消毒の励行、調理を制限した物品の販売など対応を考えた上で六浦祭を行うことを決定しました。生徒にとつて学校生活の一部である行事が次々と中止になり、延期になったものも実際のところいつ行えるのか予定が立たない、学校を紹介する対外的な行事もできない…、この2か月間に起こったことは、私たちの心配が正的中し、刻一刻と対応を迫られる大きな混乱となりました。生徒たちの



情熱を健全に発揮できる場をこれ以上取り上げるわけにはいかない、一般の方々、特に受験を考えている方に学校の様子を伝える機会を設けたい、そのような理由から取って予定通り六浦祭を行う決断をしたのです。開催2週間前のことでした。



第一日は、前日の大雨が上がり10月下旬とは思えない暖かさの中、六浦祭はスタートしました。中庭には、机を組んで作った特設ステージが登場、生徒や教員のパフォーマンスや楽しい企画が次々行われました。高校生の模擬店や六穂会(保護者会)、家庭部の販売品目が例年より制限があり、少々さびしい感がありましたが、改めて今年の六浦祭が特別なものであることを実感させられました。行きかう人々が皆マスクを着けているところは、異様な光景でもありました。それでも、会場には活気が溢れ、年に一度の六浦祭をそれぞれが楽しんでいく様子がかがえました。

しかし、インフルエンザの容赦のない攻撃は確実に進行していました。第二日の終了後、1年生1クラスで罹患者数が規定に達し、閉鎖を決定。そして、第二日…さらに1年生2クラス、2年生1クラスで罹患者数が規定に達し、1年生は学年閉鎖、2年生1クラスは閉鎖の措置をとらざるを得ませんでした。中学1年生にとつて初めての六浦祭です。しかも、第二日は

特別な六浦祭は、私たちに色々な思い出を残して終了しました。

大きな影響を受けたのは、文化部です。特に公演を行う吹奏楽部、演劇部は、大打撃を受けました。吹奏楽部はそれでも何とか公演を行いました。演劇部はほとんどが中学1年生である演劇部は公演中止となり、楽しみに来校した卒業生たちをがっかりさせました。

### [Mutsuura Junior and Senior High Schools]

#### Mutsuura Festival in 2009

Mutsuura Festival, held on October 30th (Fri) and 31st (Sat), was quite different from those held in previous years. Although many school events were cancelled or postponed due to the threat of influenza, the Mutsuura Festival was held as scheduled but on the condition that masks be worn by participants and adequate disinfection measures be taken. Products to be sold were also limited. During the event, however, some classes and grades had to be temporarily closed which made students, parents and former students who had looked forward to the event disappointed. Therefore, the festival itself ended up being full of unusual events.



小学校

教諭 高戸愛香

佐々木和之氏講演会

11月28日(土)、創立125周年記念事業の一環として、関東学院中学校高等学校グレスitt礼拝堂において

佐々木和之先生の講演会を行いました。佐々木先生は、アフリカのルワンダでNGO団体「REACH」の一員として、紛争で深く傷ついた人々の中で和解の活動をしています。先生と小学校との関わりは今年で5年目になります。

今回、佐々木先生の講演の前に、4年5年6年のキリスト教委員の児童が発表するという機会が与えられました。4年生はルワンダの地理・文化・農業・教育について調べ、それを表やグラフにまとめて発表しました。5年生はルワンダで起きたかなしい出来事であるジェノサイド(大量殺戮)について、黒柳徹子さんの「トットちゃん」とトットちゃんたち」という本の一部を引用しながら、わかったこと、そこから感じたことを自分の言葉で語りました。



6年生は佐々木先生のルワンダでの活動と、この5年間にわたる先生と小学校とのあゆみについて、自作の紙芝居を見せながら発



表をしました。キリスト教委員の児童は発表するにあたり、たくさんの練習を重ねました。そして、その中でルワンダを今まで以上に身近に感じる事ができました。また、聞いてくださった保護者や児童の方々もルワンダのことをより理解できたようです。このような機会が与えられたことに感謝いたします。

佐々木先生は講演の中で、ルワンダでの活動と今後の夢を語られました。その夢が実現できるように私達はお祈りするとともに、小学校として応援できることを具体的に今後も考えていきたいと決意を新たにしました。

[Primary School]

**Lecture by Mr. Kazuyuki Sasaki**  
Kazuyuki Sasaki from REACH, an NGO group, gave a lecture on November 28th at Kanto Gakuin Junior and Senior High School's Gressitt Chapel as part of the 125th Anniversary Projects. He talked about his activities in Rwanda and his dreams for the future. Prior to the lecture, fourth-graders studied the geography, culture, agriculture and education in Rwanda. Fifth-graders discussed what they felt about genocide based on the book. Sixth-graders made a presentation on Mr. Sasaki's activities in Rwanda, his background, and the history of the elementary school using picture cards they had made.

六浦小学校

校長 島田正敏

タイの子どもたち、先生方の来日

立125周年記念事業で、本校と交流しているタイの子どもたちが来日しました。カレンバプテスト連盟牧師のダウ先生、寮の責任者ソムサク先生、中学生3名、高校生5名、通訳のオツプさんの11名です。創立記念式典、記念祝賀会に参列しました。また、捜真教会で賛美をし、教会員の方々から温かいおもてなしを受けました。タイの子どもたちは、保護者の家庭にホームステイをしました。各家庭の方々と楽しい交流を持つことができました。小学校では、子どもたちと遊んだり、算数の授業に参加したりしました。

6年生とハンバグを作ってみんなで食べました。また2、4年生と三崎口に遠足に行きました。タイの人は、初め海を見て感動していました。来日した生徒たちの実家には、まだ電気が来ていません。高床式の家で家族が生活しています。タイの子どもたちは、近代化した日本の生活に驚き、また多くのことを学んだことでしょう。高2のシリパット君は「日本に来る機会をいただき、一緒に過ごさせていただき、子どもたち、先生方に感謝しています。ぼくは忘れません。体は遠く離れてしまっけれど、心はいつも近くにあります」と言って帰国しました。



[Mutsuura Primary School]

Thai children and their teachers visit Japan

As part of the 125th Anniversary projects, Thai children who have been participating in interaction activities with Kanto Gakuin visited Japan. The group consisted of eleven people; Mr. Dow, a Christian minister, Ms. Somsak, the housemother, 3 junior high students, 5 senior high school students, and an interpreter. They joined Kanto Gakuin's anniversary ceremony and party. The children stayed at KG students' houses where they had a great time for interaction. They also played with children at the elementary school, joined a math class, and cooked and ate hamburger steaks with the sixth-graders. They also went on a field trip to Misagichugi with second- and fourth-graders.



## 六浦幼稚園

主任 鈴木直江

### 創立60周年の歩みの中に

**11** 月21日(土)、創立60周年記念礼拝とコンサートとしてお祝いの会

を大学人間環境学部チャペルと幼稚園ホールにて、来賓の方々、学院関係者、在園児とその保護者の御出席のもと、無事に行うことができました。記念コンサートは、クリスマスチャーチストの森祐理さんが素晴らしい歌声と温かいメッセージを下さいました。記念礼拝やお祝いの会では、多くの卒業生が奏楽や賛美、演奏、歌バレエなどの奉仕をして下さいました。在園児たちには、大先輩にあたる卒業生の姿はきつと輝いて映ったことでしょう。私たち教職員は、このような形で再会できた卒業生に感動と、このためにそれぞれが準備



#### [Mutsuura Kindergarten] The 60-year history of the kindergarten

The 60th anniversary service, concert and celebration were held on November 21, 2009 at the chapel of the College of Human and Environmental Studies and the Kindergarten's Hall. In the concert, Yuri Mori captured the audience with her wonderful voice. She also shared with the audience a warm message. At the anniversary service and celebration, former pupils presented stage performances: some played musical instruments, some sang hymns and other songs, and others danced. In this changing society with diversified values, it is the hope of the kindergarten to convey God's love, which never changes, to children.

の子どもたちを送り出してきましたが、これらの子どもたち一人一人の成長を神様が常に守り導いて下さっていることを改めて思い、喜びで満たされました。そして、今まで先達の方々が大切にされたことを、これからも私たちが大切に子どもたちと共に歩んでいきたいと思えます。この変化する時代、多様な価値観の中にあつて、変わらないもの—神様の愛—を子どもたちに伝えていきたいと願います。最後に幼稚園創立60周年記念の会のためにご尽力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。



をして参加してくれたいことに對する感謝の気持ちで一杯になりました。幼稚園は60年の歩みの中でたくさ

## 野庭幼稚園

主事 小高千恵

### 目に見えないものが 見えるとき

**降** 誕節に入つて間もないある日、年少児の作った水餃子を茹でていると、「二人の年長児と担任が「ごめんさい」とやつて来ました。下を向いたままのその子が差し出した手の中には、壊れた陶器のヨセフがありました。「自分で説明してね」と担任に促されて、小さな声で「わざとじゃないんだけど…、コートがぶつかつて割れたの」と。「何がいけなかったかな?」と尋ねると「コートをプイーンと取つたから」と少し乱暴な仕草をしました。

大切なクリップであることは良く判つていて、わざとではないことも理解できました。しかし、確かにアクシデントだったのでしょ



#### [Noba Kindergarten]

##### When you see what is invisible

One day, a pupil in the four-year old class came to me with his teacher, saying, "I'm sorry." He seemed to have broken a ceramic statue of St. Joseph. Since it was clear that he did not break it on purpose, I told him to tell his parent about what had happened and let him go home. A little after nine at night, his mother called me to apologize. I was overwhelmed thinking about what he had felt until he told his mother about what had happened at school that day. This is a good example, from which I saw an invisible thing — that is our educational philosophy: "Believe in children and their ability to grow."

う。「この事は先生達からはおうちの人は話さないので自分で伝えるよう」に言つて帰りました。夜9時を過ぎた頃お母様よりお詫言の電話がありました。お風呂に入っている時に話したようです。園から帰宅してひと遊びし、夕食やテレビを見て就寝が近いしるしの入浴まで、この子はずっと自分と向かい合っていたのだと思うと胸が熱くなりました。苦しい事にも目をそらさず、しっかりと自分と向かい合ったこの子の忍耐と勇氣に、「子どもを信じて成長を待つ」園の教育理念が見えた出来事でした。まさに、キリストの現存といえる出来事です。



# 携帯サイト 「OliveMap」 を公開!

## ■OliveMap<関東学院同窓生店舗紹介携帯サイト>

関東学院では、創立125周年記念事業企画として、関東学院同窓生相互の交流・発展に寄与するため、関東学院の同窓生並びに学生・生徒・児童・園児の保護者の皆様を中心としたステークホルダーの方々の経営する店舗を紹介する携帯サイト「OliveMap」を公開しました。

同サイトでは、横浜市中心街区の飲食店や小売店を、同窓生の声と共にご紹介しています。

今後、順次掲載店舗・地域を充実させると同時に、携帯画面クーポン券などの企画も立ち上げる予定としておりますので、同窓生同士の会合や歓迎宴会、または横浜市内でのお買い物の際などに是非ご利用ください。

なお、アクセス方法は右記の通りです。(ご利用の際には、OliveMapサイト上に掲載されております最新の利用規約をご確認ください。)

当サイトに関するお問い合わせ及び店舗紹介の掲載を希望される同窓生の方は、下記のアドレスまでご連絡ください。(なお、当サイトへの店舗紹介につきましては、本学院のもとで地域や業種・業態等を確認させて頂いた上で、無料で掲載させて頂いております。)

◆学校法人 関東学院 OliveMap事務局  
map@kanto-gakuin.ac.jp

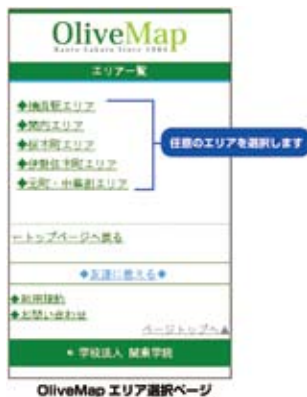
Release of "OliveMap," a mobile phone site  
Kanto Gakuin has released "OliveMap," a mobile phone site to introduce shops run by Kanto Gakuin's supporters, including parents of alumni and students from our kindergartens to university, with the hope to contribute to the interaction and development of relationships among our alumni and supporters. The site provides introductions to eateries and retailers, along with comments from former students.

1 携帯電話のInternetアドレス欄に下記のOliveMapのURLを入力または、下図のQRコードよりOliveMapトップページにアクセスしてください。

◆OliveMap: <http://map.kanto-gakuin.ac.jp>  
(携帯電話からアクセスしてください)



2 地域から同窓生のお店を探す場合には、「★エリアから探す」をクリック、店名からお店を探す場合には、「★お店から探す」をクリックしてください。



3 エリア一覧画面より、お店を探したい地域名をクリックしてください。



4 上部に地図の表示された店舗選択ページが表示されますので、地図の下部に表示されたリストから、詳細情報を表示したいお店を選んでクリックしてください。



5 選択したお店の店舗情報、紹介文、ギャラリー、同窓生情報、クーポン券などの詳細情報が表示されます。

お店の詳細な地図を表示したい場合には、[MAP] ボタンをクリックすると拡大可能なお店の地図が表示され、お電話で予約等を行いたい場合には、電話番号欄をクリックすると携帯電話から直接お店に電話することができます。



2010年度春学期の公開講座は、40を超える多彩な内容の講座を予定しています。

昨年度から建学の精神であるキリスト教の講座を開講していますが、本年度も引き続き開講します。語学講座も中級、上級クラスを継続して展開し、文学・哲学・メディア論などの人気講座も開講します。

産学官の連携、燦葉会およびOBの諸団体との協力、また今回の春学期にはJTBとの連携による旅の講座も企画しています。金沢地区、横浜の地域に関連した講座も人気ですので、今回は古都・鎌倉にちなんだ文学講座を企画しています。ご期待ください。

資格講座も春から新しい企画を打ち出しています。「プライダグプランナー検定2級試験対策講座」「サービスケア専門士取得講座」です。資格講座のガイドブックを作成し、配布しますので、ぜひお手に取って下さい。2009年度の「旅行業務取扱管理者(国内)」の試験対策講座では、全国の合格率を大きく上まわる合格

者を出すことができました。就職が厳しい状況のなかで、資格を取ることはキャリアアップにつながります。ぜひ生涯学習センターの資格講座にチャレンジして自分の可能性を広げてください。



**Classes offered by Lifetime Learning Center**

In the 2010 spring semester, more than 40 extension classes are scheduled, including a Christianity class, intermediate and advanced classes for languages, and classes on popular fields such as literature, philosophy and media studies. The Lifetime Learning Center has also planned to offer classes jointly organized with companies and government agencies, as well as alumni. For example, a class in collaboration with JTB is planned. In addition, there will be specially designed literature classes with a focus on the ancient city of Kamakura.

●2010年度春学期公開講座一覧

実施場所	講座		
金沢八景キャンパス	ゴルフ		
	地元「金沢」の歴史を知ろう、その3		
	中国語入門		
	中国語初級		
	フランス語中級		
	フランス語上級		
	韓国語初級2		
	韓国語入門		
	たのしいパソコン講座—写真の取り込みと加工—		
	港都横浜の社会と文化と観光		
	中国語中級		
	日本の文化—美しき能の世界 その四		
	暮らしの中の色彩講座		
	イタリア都市紀行 フィレンツェ		
	内なる子供心(自分の源泉)を活かして、より自分らしい豊かな人生を創造!		
ラッピングコーディネーター講座			
金沢文庫キャンパス	世界を旅しよう		
	陶芸入門		
	日本の文化—鎌倉彫		
	たのしいパソコン講座—フォトムービーを作る—		
	源氏物語の世界 その三		
	保育実践講座		
	親子陶芸教室		
	コンサートシリーズ第14回		
	キリスト教と関東学院		
	鎌倉の文学者たち		
	英会話		
	小田原キャンパス	ひとりで生きること、みんなで生きること	
		KGU関内メディアセンター	たのしいパソコン講座—インターネットで検索上手に—
			詩を読む・詩を書く
			韓国語初級3
短歌創作前のレッスン・その2			
横浜洋館物語			
哲学初歩 11			
実践ファイナンシャル講座			
初心者パソコン講座活用術			
Word&Excelをもっと便利に使いこなそう!			
ポストモダンの地域開発			
平和について語る 7			
たのしいパソコン講座—インターネットを生活に活用—			
映画を読む「2001年宇宙への旅」から学ぶメディア論			
ギリシャ古典を読む 3			
絵画と建築			

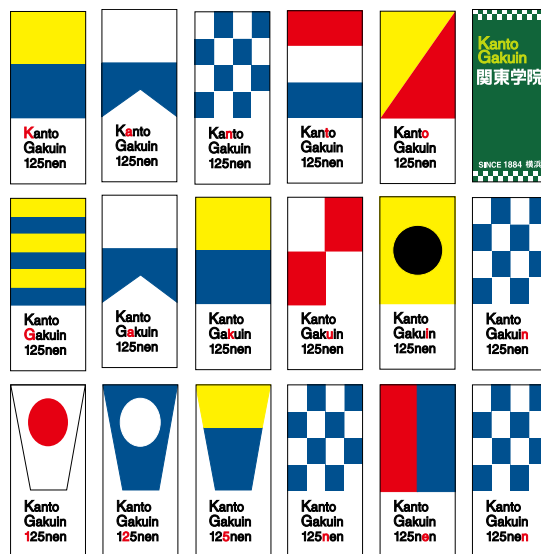
編集後記

読者の皆様には、いつもこの学報につきまして、ご愛顧頂きありがとうございます。

今号から紙面を大幅に見直すとともに、今回は創立125周年の特集として頁を別立てにしました。如何でしょうか。学院は創立125周年を迎え、これまで支えてくださった方々に感謝しつつ、引き続き創立150周年に向けて、学院の125周年宣言とともに「社会から選ばれ続ける関東学院」を実現するよう展開して参ります。

さて、2009年9月発行の「関東学院学報No.38号」P1の1段21行目の「1909年10月9日」は「1909年10月12日」、P4の5行目の「マンスウィールド・カレッジ」は「マンスウィールド・カレッジ」並びにP5の3段31行目の「関東学院の源流を探る」は「関東学院の源流を探る」の誤りでした。訂正の上お詫びいたします。

学院や学報についてのご意見や感想をお寄せください。  
宛先 関東学院 法人事務局広報課 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL : 045-786-7006 E-mail:kouhou@kanto-gakuin.ac.jp



関東学院創立125周年WEEK デザインフラッグ

### 関東学院大学

#### ●金沢八景キャンパス

経済学部・工学部・人間環境学部  
大学院（経済学研究科・工学研究科）  
法科大学院

#### ●金沢文庫キャンパス

文学部  
大学院（文学研究科）

#### ●小田原キャンパス

法学部  
大学院（法学研究科）

☎045-781-2001(代)

☎045-781-2001

☎045-786-7179

☎0465-34-2211

### 関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

### 関東学院小学校

☎045-241-2634

### 関東学院六浦中学校・高等学校

☎045-781-2525

### 関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

### 関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

### 関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

学校法人

# 関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 ☎045-786-7028 (代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



この印刷物は大豆インキを使用しています。

古紙配合再生紙を使用しています